

ナツズイセン

学名：*Lycoris squamigera* Maxim. 科名：ヒガンバナ科



このかわいらしい花はナツズイセンと言
い、ヒガンバナ科ヒガンバナ属に属します。
形の似ている水仙とは同じヒガンバナ科
ですが、水仙はスイセン属です。夏に水
仙に似た花を咲かせることから夏水仙と
いう和名が付けられています。人里近く
の山野に咲く多年草で本州、四国、
九州に分布しています。

葉は淡緑色から白緑色に変化し、夏に
葉が枯れ、その後50〜70cmの花
茎が伸びていき、花を咲かせます。花
は淡い桃色のラッパのような形をしてお
り、4〜8個の花が付きます。地中
には大きなうつきょう状の鱗茎と呼ばれる
地下茎があります。

ナツズイセンは主に観賞用として用いら
れています。 「ガラントミン」等の多くの
アルカロイドが含まれています。そのため
有毒植物に区分されています。

薬用部位は鱗茎で、民間では鎮痛
作用に着目して、関節炎、乳腺炎、
腰痛に利用できます。秋に採取してす
りおろし、小麦粉を少量加えて軟膏状
にして塗ります。薬に使われる一方で、
多くのアルカロイドを含むことから、人
にとって有害な一面も持つため使用の際は
注意が必要です。

生薬名	鹿葱（ロクソウ）
薬用部位	鱗茎
薬効	鎮痛作用
用途	関節炎、乳腺炎、腰痛などに用いる。

エビスグサ

学名： *Cassia obtusifolia* Linne 科名： マメ科



ハブ茶を飲んだことはありませんか？ハブ茶は眼精疲労、胃弱、便秘、高血圧、二日酔いに良いとされている健康茶でエビスグサの種子から作られています。なぜエビスグサなのにハブ茶と呼ぶのかというと、以前は「ハブソウ」という同じマメ科で成分が似ている植物の種子を使っていたためです。エビスグサの方が多く採れることからハブソウを使わなくなったそうです。

アメリカ原産で東南アジアや中国、日本で栽培されている一年草です。草丈約1mで6〜8月になると黄色の5弁花が咲きます。果実は15cmくらいの少し曲がった鞘状で中に種子が入っています。種子は褐色で光沢があります。細長い六角形の形をしていることから、六角草とも言われています。

10月頃、全草を抜いて天日で乾燥させた後、果実から種子を出して日干しにします。乾燥した種子を生薬名で決明子（ケツメイシ）と言います。決明子にはアントラキノン誘導体が含まれており、下剤や整腸薬として便秘、腹部膨満感に使用されています。漢方薬としてはあまり使用されていません。

生薬名 決明子（ケツメイシ） 局方生薬

薬用部位 種子

薬効 緩下、整腸、利尿作用

用途 便秘、胃弱に用いられる。



キキョウ

学名：*Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC. 科名：キキョウ科



「秋の七草」の一つであるキキョウは初夏から咲き、星の形をした5弁花です。山中に生え、花が美しいために古くから栽培もされてきました。「秋の七草」は山上憶良（やまのうえのおくら）が万葉集で詠んだ歌に由来しています。万葉時代（8世紀頃）には「あさがほ」と呼ばれ「秋の七草」に登場する「あさがほ」はキキョウだとされています。

「秋の七草」の各植物をご存知でしょうか。オミナエシ、オバナ（ススキ）、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギです。

「春の七草」は七草粥にして食べるなど「食」を楽しむものですが、「秋の七草」は「観賞用」としても楽しめる植物です。皆様もこの機会にお散歩をしながら道端の草地をのぞいてみたり、植物園に出かけて秋の七草を探してみてはいかがでしょうか。

また、「秋の七草」とされる植物には薬効を示すものもあります。このうち、キキョウの根を乾燥させて得られた生薬を「桔梗根（キキョウコン）」と言います。根には薬用成分である「サポニン」が含まれ、去痰、鎮咳薬として用いられます。

春の七草とは？

セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロの7つの植物です。七草粥はこれらの植物を材料として作られ、1月7日に一年の無病息災を願ったり、祝膳や祝酒で弱った胃を休めるために食べられます。

生薬名 桔梗根（キキョウコン）局方生薬

薬用部位 根

薬効 鎮咳、去痰、抗炎症、排膿作用

用途 鎮咳去痰薬、消炎排膿薬などに配合される。
桔梗湯（キキョウトウ）、
柴胡清肝湯（サイコセイカントウ）など

キョウチクトウ

学名： *Nerium indicum* Mill. 科名：キョウチクトウ科



「綺麗なものには毒がある。」このような言葉を一度は聞いたことがあるかと思えます。透き通るような薄手の美しい花を咲かせるキョウチクトウは、全ての部位に毒性をもつ植物の一つです。

キョウチクトウの樹高は約3mで見栄えもよく、花の色はピンク色、白色、黄色で種類も豊富なため、観賞用として庭園などに植栽されます。また、害虫が付きにくいこと、大気汚染などの公害にも強いことから、街路樹などに植えられている身近な植物です。葉の形は細く長く竹の葉に似ています。そして、花の形が桃の花に似ていることから、漢字では夾竹桃（キョウチクトウ）と書かれます。

キョウチクトウを誤って口にしてしまうと、少量でも吐き気、下痢、倦怠感、腹痛などの症状をもたらします。葉や枝を燃やした時の煙にも有毒成分が含まれているため、切り落とした枝や葉をたき火感覚でむやみに燃やしてしまうと危険です。枝や葉の汁でもかぶれることがありますので、なるべく触らずに観賞用として楽しみましょう。

生薬名 夾竹桃(キョウチクトウ)

薬用部位 葉、樹皮

薬効 強心、催吐、利尿作用

用途 打撲の腫れや痛み止めとして使われることがありましたが、有毒なため一般で使用できません。

